

平成 28 年度事業報告書



社会福祉法人 京丹波町社会福祉協議会

平成28年度事業報告

I 総 括

平成28年度も、これまでにない自然災害や痛ましい事件・事故が発生しました。

4月に発生した熊本地震では、震度階級制定後、初めてとなる震度7が連続して2回観測されるなど、熊本県・大分県に甚大な被害をもたらしました。京丹波町社会福祉協議会からも熊本県西原村社協災害ボランティアセンターに職員2名を派遣し、ボランティアによる救援活動がスムーズに行えるよう運営の支援を行いました。

また、7月の相模原障害者施設殺傷事件や8月の台風10号による高齢者施設（高齢者グループホーム）への洪水被害では、本来、安全でなければならない福祉施設において尊い入居者の命が失われるなど、福祉関係者だけでなく、全国に大きな衝撃と今後の対策について考えさせられるものとなりました。

このような状況の中、本町では私たちの普段の暮らしにおいて、過疎化・超高齢社会や孤独・孤立が進行し、生活課題を解決する新たな手段が喫緊の課題になってきております。

京丹波町社会福祉協議会では、平成28年度、住民が主体となって地域で支え合う新しい取組みとして「住民寄り添い型助け合い活動かがやき」をスタート。これは、研修を受けた住民が支援者となり、暮らしの中のちょっとした困りごとを、ご本人と一緒に活動することで課題を解決するだけでなく、ご本人の自立も支える相互支援の取組みとなっております。また、地域の中で、多様な方々に参加いただきながら見守り活動の構築を目指す「絆ネット構築支援事業（京丹波町委託事業）」は、各種事業所や団体、小学校への聞き取りを行い、実態を把握しながら本町に即した見守りシステムが構築できるよう活動を進めております。

さらに、京丹波町社会福祉協議会では、地域の福祉力を高め地域福祉活動の推進役としての期待に応えられるよう、平成28年4月に大きく組織機構の改編を行いました。この改編により、社協が持つ在宅福祉の視点と地域福祉の視点を組み合わせ、小中学生を対象にデイサービスセンターでの「キッズボランティア」の取組みが生まれ、高齢者と交流することで、子どもたちには思いやりの気持ち、やさしさの気持ちを培っていただく機会、高齢者には子どもたちの持つ若いパワーで元気をいただく機会となり、双方にとって価値のある取組みとなりました。また、障害者施設殺傷事件という痛ましい事件があったなかで、福祉教育として、命の尊さを伝える大事な取組みとして今後も継続していきたいと考えております。

さらには、高齢者・障害者・児童とあらゆる分野における支援事業を町行政の支援のもと展開するとともに、安心のまちづくりに向けた様々な事業を以下のとおり報告いたします。

II 社会福祉協議会運営基盤の強化

1 会員増強運動

●会員増強運動

会員種別	合計	昨年度	備考
一般会員	4,978,000円	5,109,000円	成人者：1,000円
特別会員	230,000円	215,000円	会社・事業所等：5,000円
賛助会員	48,000円	51,000円	福祉施設・団体等：3,000円
合計	5,256,000円	5,375,000円	

【成果・課題】

・今年は取り組み時期に合わせ、町内ケーブルテレビによる社協事業紹介と会員増強運動のお願いを実施した。

2 法人運営

●会務

(1) 理事会の開催・・・5回

開催年月日	協議内容
平成28年5月24日	27年度補正予算、27年度事業報告・収支決算、異動に伴う評議員の同意、他
平成28年6月20日	規程の変更、社協理事の委員会等委員の割り当て、社協事業所視察、他
平成28年9月8日	就業規程の変更、福祉まつり、他
平成28年12月12日	28年度上半期事業及び収支予算執行状況の確認、社会福祉法制度改革に伴う本会定款変更、評議員選任・解任委員会規程、理事・監事推薦委員会に関する規程、理事・監事及び評議員の選出に関する規程、私有車業務使用規程、給与規程の変更、他
平成29年3月9日	28年度補正予算、29年度事業及び資金収支予算について、本会評議員候補者案について、経理規程、給与規程、共同募金配分検討委員会規程、の変更について、社協役員報酬案について、他

(2) 監査会の開催・・・2回

開催年月日	協議内容
平成28年5月17日	27年度事業及び収支決算についての監査
平成28年11月21日	28年度上半期事業及び収支予算執行状況の監査（中間監査）

(3) 評議員会の開催・・・3回

開催年月日	協議内容
平成28年5月26日	27年度事業及び収支決算、異動に伴う理事の承認、他
平成28年1月11日	社会福祉法人制度改革に伴う本会定款変更の承認
平成29年3月23日	28年度資金収支補正予算、29年度事業計画及び資金収支予算の承認について 他

(4) 三役・管理職会議の開催・・・10回

開催年月日	協 議 内 容
平成28年4月26日	今後の日程確認、事業報告・決算事務の連絡、絆ネットに伴う新規採用・職員研修・三六協定・処遇改善加算・ストレスチェック・熊本地震支援について、他
平成28年5月12日	27年度事業及び収支決算、絆ネットに伴う新規採用について、熊本地震支援について、他
平成28年7月7日	夏季休暇について、社協会費のお願いについて、絆ネットに伴う職員採用の結果、各課からの報告、他
平成28年8月26日	福祉まつりについて、規程の変更について、日程の確認、各課からの報告、他
平成28年9月29日	最低賃金改正に伴う賃金の見直し、私有車使用規程について、福祉まつり、日程の確認、各課からの報告、他
平成28年10月18日	私有車使用規程について、三六協定について、福祉まつりについて、日程の確認、各課からの報告、他
平成28年11月15日	28年度上半期事業及び予算執行状況監査について、社会福祉法制度改革に向けた手続きについて、理事会に向けて、日程の確認、各課からの報告、他
平成29年1月25日	社会福祉法制度改革に向けた手続きについて、私有車業務使用規程について、日程の確認、各課からの報告、他
平成29年2月22日	社会福祉法制度改革に向けた手続きについて、来年度の三六協定締結に向けて、給与規程の変更について、来年度に向けて、日程の確認、各課からの報告、他
平成29年3月28日	ファミリー・サポート・センターについて、福祉まつりについて、役員賠償保険について、日程の確認、各課からの報告、他

(4) 各種運営委員会の開催

委員会名	丹 波	瑞 穂	和 知	合 計
地域在宅福祉委員会	0	0	0	0
心配ごと相談所運営委員会		1		1
福祉資金貸付委員会	0	1	0	1
ボランティアバンク運営委員会		1		1
共同募金配分委員会		1		1
理事・監事推薦委員会		2		2
評議員選任・解任委員会		1		1

(5) 管理職（課長）会議の開催・・・11回

開催年月日	協 議 内 容
平成28年4月13日	本年度の事業の進め方について、三六協定について、処遇改善について、各課より報告、

平成 28 年 6 月 2 日	絆ネットに伴う新規採用について、理事会について、各課からの報告、他
平成 28 年 6 月 28 日	携帯電話のスマホ変更について、職員全体研修について、各課からの報告、他
平成 28 年 8 月 2 日	就業規程の変更について、業務振返りシートについて、職員全体研修の振返り、組織改編の振返り、各課からの報告、他
平成 28 年 9 月 12 日	私有車使用規程について、最低賃金改正に伴う賃金の見直し、福祉まつり、日程の確認、各課からの報告、他
平成 28 年 10 月 5 日	私有車借上げ料について、三六協定締結について、業務振返り面談と組織改編振返りについて、各課からの報告、他
平成 28 年 11 月 15 日	上半期の事業報告について、私有車使用規程について、三六協定締結について、業務振返り面談について、各課からの報告、他
平成 28 年 12 月 12 日	来年度の事業体制と職員内部研修について、各課からの報告、他
平成 29 年 1 月 25 日	フェイスブックの運用について、職員募集について、来年度への課題について、各課からの報告、他
平成 29 年 2 月 21 日	来年度の三六協定締結に向けて、給与規程について、きょうと福祉人材育成認証制度について、職員募集について、各課からの報告、他
平成 29 年 3 月 22 日	職員採用について、新年度事業について、各課からの報告、他

(6) 職員内部研修の開催・・・5回

日時	場所	対象職員	内容
7 月 27 日 (水) 18 : 30～20 : 30	瑞穂保健福祉センター 集団指導室	正職員 嘱託職員	職員の接遇マナーについて 講師：介護労働安定センター京都支部 杉山久美子 氏
8 月 25 日 (木) 13 : 30～15 : 00	瑞穂保健福祉センター 会議室	事務局長 課長 5 名 総務人事・庶 務係 2 名	ストレスチェック勉強会① 講師：介護労働安定センター京都支部 花谷 滋康 氏
9 月 6 日 (火) 10 : 30～12 : 00	瑞穂保健福祉センター 会議室	事務局長 課長 5 名 総務人事・庶 務係 2 名	ストレスチェック勉強会② 講師：(株)ホリスティックコミュニケーション 豊田 直子 氏
10 月 11 日 (火) 13 : 30～15 : 30	瑞穂保健福祉センター 会議室	事務局長 課長 5 名	評価者訓練 (基礎・基本編) 講師：介護労働安定センター京都支部 杉山久美子 氏
平成 29 年 3 月 19 日 (日) 8 : 30～12 : 00	京丹波町健康管理セン ター	正職員 嘱託職員	京丹波町災害ボランティアセンター運 営訓練 担当：総務課 説明補助：地域福祉課災害ボランティア センター担当職員

【在宅福祉推進事業】

1 福祉サービス利用援助事業

認知症や障害等により判断能力に支援が必要な方と契約を結び、利用者の自己決定に基づき、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理などの支援を行う。

(1) 契約・支援等の件数・・・平成29年3月31日現在

	27年度末契約件数					解約件数	新規件数	保留件数	28年度支援件数					生活保護受給者数	相談継続件数
	認知症	知的障害	精神障害	その他	計				認知症	知的障害	精神障害	その他	計		
丹波地域	6	2	1	0	9	4	3	1	6	1	0	1	8	1	1
瑞穂地域	4	0	1	1	6	1	3	0	5	0	2	1	8	1	0
和知地域	2	0	0	1	3	0	1	0	3	0	0	1	4	0	0
合計	12	2	2	2	18	5	7	1	14	1	2	3	20	1	1

①平成28年度 新規契約者数 → 7名

②平成28年度 解約者数 → 5名

(2) 支援内容

支援内容	丹波	瑞穂	和知	合計	備考
○福祉サービス利用援助	8	8	4	20	福祉サービス利用契約手続き支援
○日常的な金銭管理	8	8	4	20	衣食住等の日常経費の管理
○通帳・印鑑の預かり	7	7	4	18	通帳・印鑑の管理
○書類等の預かりサービス	2	6	0	8	年金証書、権利証書等の預かり

(3) 専門員・支援員研修の開催

研修名	開催日	内容
第1回綾部市京丹波町合同生活支援員研修交流会会議	4月20日	綾部市社協と初めて合同開催する研修交流会についてのテーマ・内容についての検討会議
専門員新任研修	4月26日	権利擁護事業専門員としての基本的知識と心構え等について学ぶ研修会
第1回綾部市京丹波町合同生活支援員研修交流会	5月19日	綾部市社協と研修交流会を合同開催
生活支援員新任研修（南部会場）	5月27日	権利擁護事業生活支援員としての基本的知識と心構え等について学ぶ研修会

専門員（担当職員）会議及びテーマ別研修交流会	6月22日	府内の事業推進状況や委託費の確認。テーマ別研修交流会ではシナリオロールプレイングを実施
ブロック別事業推進会議及び事例検討会議 南丹ブロック現任生活支援員研修交流会推進会議	9月14日	本事業の使用様式の修正に係る検討を行った後、南丹ブロック社協の各社協からケースを持ちより事例検討会を実施 推進会議では、研修交流会についてのテーマ・内容等について検討
南丹B生活支援員研修交流会第2回検討会議	11月21日	研修交流会の具体的な内容検討
生活支援員現任研修（北部）	11月22日	精神科医による精神障害の特性・支援について講義と他市町村社協による実践報告
南丹ブロック現任生活支援員研修交流会	12月1日	亀岡作業所長による講演を受け、3障害についての学習と支援員同士の情報交換
傾聴講座（町社協主催）	3月6日	生活支援員に必要な傾聴スキル向上を目的に社協主催の傾聴講座に参加
第2回専門員・担当職員・テーマ別研究交流会	3月7日	平成28年度事業報告・平成29年度取組み方針の確認
住民の権利擁護と関係機関の協働を考える会	3月15日	南丹市社協の主催事業に参加。住民の権利擁護のため実施されている取組みと関係機関の協働について話を聞いた

【成果・課題】

- ・平成28年度は5件の解約があり、その理由は特養への入所3件、南丹市の障害者グループホーム入所1件、本人申し出（家族対応）による解約が1件であった。
- ・新規契約は7件あり、その区分は、高齢認知5件、精神障害1件、その他1件であった。契約件数20件となり、昨年度末より2件増となった。
- ・今年度から地域福祉課に相談支援係を設置、これまでより包括支援センターや南丹保健所との連携を深めることができ、新規相談から契約につながったケースが増えた。
- ・京丹波町の利用者の特徴は高齢認知区分が多く、特養施設等へ入所される方が多いため解約件数が多くなる。一方で、今年度一年間で7件の新規契約は多い。

2 住民寄り添い型助け合い活動かがやき

世帯状況の変化に伴い生活上の困りごとを誰にも相談できず、地域の中で孤立する高齢者や障害者が増えている。また、介護保険法の改正に伴い、介護予防・生活支援の充実等が求められている中、住民の主体的な参加と協力によりお互いさまの気持ちで助け合う活動の推進を行う。

(1) 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数（件）	0	5	9	8	7	9	6	10	5	1	2	2	64
新規利用者数（人）	0	4	7	2	2	0	1	3	1	0	1	1	22
相談件数（活動外）	4	2	3	1	1	2	1	1	4	2	1	4	27

(2) 依頼内容

掃除（風呂掃除、拭き掃除、高い所の掃除、玄関・2階の掃除など）、衣替え、部屋の模様替え、荷物整理、草引き、調理、電球交換、換気扇掃除、米運び、畑のマルチ張りなど



(3) 講座・研修会

日時・会場	内容	参加者数
9月26日(月) 13:30~15:30 瑞穂保健福祉センター	講義・演習 「自分の得意を自分の役割に」 講師：あそびの工房もくもく屋 田川雅規氏	37名
9月27日(火) 13:30~15:30 瑞穂保健福祉センター	学習 「個人情報保護・物忘れ症状の理解・感染症予防について」 担当：京丹波町社協 岬、榎川、山崎	31名
平成29年3月17日(金) 9:30~11:30 保健福祉センターほほえみ	交流会 活動者実践報告 グループワーク	21名

(4) 登録活動者数

50名(男性17名、女性33名)

【成果】

- ・新規相談、活動依頼共に急激に増えることがなかったため、幅広い依頼内容に丁寧に対応することができた。
- ・依頼者と活動者、講座受講者等が自ら活動を広報し、利用に繋がった事例があった。
- ・活動者による実践報告会を開催することにより、活動者の主体性を引き出すことができた。

【課題】

- ・新規利用がない月があったため、広報の仕方を工夫する必要がある。
- ・活動の周知において地域格差が生じている。
- ・登録活動者の所在地に偏りがある。
- ・広報紙やチラシ等文章中心の広報が多い。

【次年度以降の改善策】

- ・対象者に合わせた効果的な事業の広報や伝達。
- ・登録活動者の所在地の偏りを改善。
- ・活動者が主体的に活動に参加できるよう、講座や交流会を実施。

【高齢者福祉事業】

●介護保険事業

(1) 居宅介護支援事業・・・ケアマネジャーによる介護サービス利用の支援

職 種 名	ケアプランセンターほほえみ	備 考
管理責任者	1	
ケアマネジャー	6 (内1名育休中)	1名管理責任者兼務

○介護予防・日常生活支援総合事業（平成28年3月から移行開始）・・・京丹波町委託事業

■対象者：概ね65歳以上の高齢者で、日常生活上の援助が必要な要支援者・事業対象者

■内 容：ケアマネジメント

■予防介護支援事業の実績（総合事業・要支援1・2の利用状況実績）

	要支援1	要支援2	総合事業	合 計
28年度利用状況（人）	54	186	24	264
27年度利用状況（人）	44	219	0	263
26年度利用状況（人）	85	277	0	362
前年度比較（%）	122.7	84.9	-	100.4
26年度比較（%）	63.5	67.1	-	72.9

■居宅介護支援事業の実績（介護1～5までの利用状況実績）

	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合 計
28年度利用者	502	645	359	135	40	1,681
27年度利用者	578	763	321	132	27	1,821
26年度利用者	549	702	242	183	25	1,712
前年度比	86.9	84.5	111.8	102.3	148.1	92.3
26年度比較	91.4	91.9	148.3	73.8	160.0	98.2

【成果・課題】

- ・総合事業に順次移行し、更新を迎えられた方の利用や新規利用者相談が徐々に増えている。
- ・介護保険制度が改正され、介護保険と総合事業の利用の違いを説明しながら支援調整を丁寧に行っており今のところ大きいトラブルはない。
- ・要介護認定審査基準もより厳しくなり、利用に関しての必要性が求められ、相談時における説明が重要で制度情報に基づいた対応が今後必要である。
- ・団塊の世代が後期高齢者となる2025年まで、当面は介護保険の利用増加が考えられるが、その後は減少が予想される。

(2) 訪問介護事業・・・ホームヘルパーによる在宅支援活動

職 種 名	ヘルパーセンターほほえみ	備 考
管理責任者	1	常勤ヘルパーが兼務
サービス提供責任者	2	常勤ヘルパーが兼務
常勤ホームヘルパー	4	
登録ホームヘルパー	16	

■ 予防訪問介護事業の実績 (総合事業・要支援1・2の利用状況実績)

	要 支 援 1	要 支 援 2	総合事業	合 計
28年度利用者(人)	27	30	50	107
27年度利用者(人)	88	54	-	142
26年度利用者(人)	82	83	-	165
前年度比較(%)	30.7	55.6	-	75.4
26年度比較(%)	32.9	36.1	-	64.8
28年度提供数(回)	108	111	179	398
27年度提供数(回)	360	199	-	559
26年度提供数(回)	297	345	-	642
前年度比較(%)	30.0	55.8	-	71.2
26年度比較(%)	36.4	32.2	-	62.0

■ 訪問介護事業の実績 (介護1～5の利用状況実績)

	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合 計
28年度利用者	168	228	81	52	9	538
27年度利用者	195	193	101	62	9	560
26年度利用者	171	230	92	68	15	576
前年度比	86.2	118.1	80.2	83.9	100.0	96.1
26年度比較	98.2	99.1	88.0	76.5	60.0	93.4
28年度提供数	948	1,949	896	915	210	4,918
27年度提供数	1,117	1,811	1,302	1,199	394	5,823
26年度提供数	1,483	1,508	1,149	1,228	542	5,910
前年度比	84.9	107.6	68.8	76.3	53.3	84.5
26年度比較	63.9	129.2	78.0	74.5	38.7	83.2

【成果・課題】

- ・要支援1・2の利用相当の方は総合事業となるが、訪問介護事業所でサービス提供するのか、シルバー人材センターが行う訪問型サービスA事業を提供すべきか、しっかり検証することが必要である。
- ・要介護1・2の利用者が多い中、制度改正に伴い身体介護・生活援助提供の見直しが検討されており、今後の動向を見据えた対応が必要となってくる。

(3) 訪問入浴介護事業・・・入浴車で在宅に訪問し、入浴支援

職 種 名	瑞穂事業所	備 考
管理責任者	1	看護職兼職
介護職員	2	
看護師	2	デイ兼職

■ 予防訪問入浴事業・・・28年度利用者なし

■ 訪問入浴介護事業の実績（介護1～5の利用状況実績）

	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合 計
28年度利用状況（人）	10	0	0	9	0	19
27年度利用状況（人）	7	2	0	6	4	19
26年度利用状況（人）	0	0	0	11	7	18
前年度比較（%）	142.9	0	0	150.0	0	100.0
26年度比較（%）	0	0	0	81.8	0	105.6
28年度提供回数（回）	39	0	0	32	0	71
27年度提供回数（回）	31	5	0	23	8	67
26年度提供回数（回）	0	0	0	34	10	44
前年度比較（%）	125.8	0	0	139.1	0	102.9
26年度比較（%）	0	0	0	94.1	0	161.4

【成果・課題】

・寝たきり状態や、ターミナル期の方への入浴支援として実施しているが、1名の利用に留まっているのは、重度化された方の施設入所が多い傾向にあることが要因と考えられる。

(4) 通所介護事業・・・デイサービスセンターで、入浴・余暇活動等を提供

■ 予防通所介護事業の実績（要支援1・2の利用状況実績）

	要支援1	要支援2	総合事業	合 計
28年度利用状況（人）	3	24	68	95
27年度利用状況（人）	4	75	-	79
26年度利用状況（人）	15	102	-	117
前年度比較（%）	75.0%	32.0%	-	120.3%
26年度比較（%）	20.0%	23.5%	-	81.2%
28年度提供回数（回）	25	141	436	602
27年度提供回数（回）	20	449	-	469
26年度提供回数（回）	48	733	-	781
前年度比較（%）	125.0%	31.4%	-	128.4%
26年度比較（%）	52.1%	19.2%	-	77.1%

■ 通所介護事業の実績（介護1～5の利用状況実績）

	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合 計
28年度利用状況（人）	208	206	104	67	35	620
27年度利用状況（人）	201	250	117	81	24	673
26年度利用状況（人）	196	200	85	104	41	626
前年度比較（%）	103.5	82.4	88.9	82.7	145.8	92.1

26年度比較 (%)	106.1	103.0	122.4	64.4	85.4	99.0
28年度提供回数 (回)	1,492	1,778	869	529	256	4,924
27年度提供回数 (回)	1,340	2,175	1,077	681	133	5,406
26年度提供回数 (回)	1,263	1,687	815	573	227	4,565
前年度比較 (%)	111.3	81.7	80.7	77.7	192.5	91.1
26年度比較 (%)	118.1	105.4	106.6	92.3	112.8	10.79

【成果・課題】

- ・総合事業への移行については、地域包括支援センター、担当ケアマネジャーとの連携の中、スムーズな移行ができています。現在のところ、従来デイサービスを利用されていた方で、利用ができなくなったケースはなかった。しかし、要介護1認定の方が、更新時に要支援認定に変更となるケースがある。デイサービス利用により介護度が低くなることはうれしいことであるが、利用回数減や利用料の減額につながる実態となってきた。
- ・個別機能訓練に取り組み、利用者それぞれの持っている残存機能を継続できるよう、体操、脳トレ、歩行訓練などを行っていることにより、利用者のみなさんが元気で通所していただいているのではないかと感じている。
- ・利用状況 (67.5%)、提供回数 (66.9%) と3分の2を介護1・2の方が占めている状況である。ただ、要介護2と言っても、認知症の進行などにより、デイサービス内における支援の必要性は高まってきている。
- ・利用者の思いを実現する取り組みとして、28年度初めて「日帰り旅行事業」を実施した。25名の参加者があり、日頃のデイサービス事業では見られない表情が見られる等、楽しい一日となった。
- ・施設を地域の福祉資源として生かしていく取り組みとして、瑞穂小学校4年生の福祉体験交流事業を実施。子どもたちの発表や交流の中で、利用者とはひとつになり、子どもたちが高齢者福祉を学習する機会となった。また、瑞穂小学校との福祉体験交流事業を実施したことをきっかけに、「春休みキッズボランティア事業」を実施。3月27日から4月8日までの2週間、延57名の子どもたちが参加し、利用者との交流を深めることができた。
- ・職員研修の取り組みとして、NPO法人クローバーサービスデイサービスセンターと職員交流研修を実施。他のデイサービスセンターの取り組みを学ぶ良い機会となった。
- ・機能訓練加算の取り組みと合わせ、今後「認知症加算」等の取り組みを進めていく必要がある。そのためには、職員の資格取得、職員の配置等をどうするか等、5年10年を見据えたデイサービスセンター運営計画を策定して行く必要がある。また、老朽化したデイサービスセンター設備の改修計画、そのための資金計画も併せて検討していく必要がある。



デイサービスセンター日帰り旅行 (H29.3.5:天橋立方面)

●高齢者生活支援事業・・・京丹波町委託事業

(1) 軽度生活支援事業

■対象者：概ね65歳以上の高齢者で、一人ぐらし高齢者・高齢者世帯等、日常生活上の援助が必要な方

■内容：掃除、洗濯、調理、他軽易な日常生活上の援助

■提供者：ホームヘルパー

	丹波	瑞穂	和知	合計
28年度利用者(人)	12	26	0	38
27年度利用者(人)	7	40	0	47
26年度利用者(人)	19	50	0	69
前年度比較(%)	171.4	65.0	-	80.9
26年度比較(%)	63.2	52.0	-	55.1
28年度提供数(回)	43	38	0	81
27年度提供数(回)	18	54	0	72
26年度提供数(回)	78	107	0	185
前年度比較(%)	238.9	70.4	-	112.5
26年度比較(%)	55.1	35.5	-	43.8

【成果・課題】

- ・この事業は、訪問型サービスAに移行されつつある。今後、軽度生活支援事業のあり方の検討が必要である。

(2) 外出支援事業

■対象者：概ね65歳以上の高齢者、または概ね60歳以上の高齢者であって下肢が不自由な方で、一般の交通機関の利用が困難な方

■内容：自立生活を維持し、要介護状態への進行を防止するために必要と認められる通院や買い物等の送迎

■提供者：運転介助員、ホームヘルパー

	丹波	瑞穂	和知	合計
28年度利用者(人)	643	517	230	1,390
27年度利用者(人)	693	558	239	1,490
26年度利用者(人)	720	534	239	1,493
前年度比較(%)	92.8	92.7	96.2	93.3
26年度比較(%)	89.3	96.8	96.2	93.1
28年度提供数(回)	2,270	1,688	704	4,662
27年度提供数(回)	2,585	2,029	479	5,093
26年度上半期(回)	2,706	1,983	401	5,090
前年度比較(%)	87.8	83.2	147.0	91.5
26年度比較(%)	83.9	85.1	175.6	91.6

【成果・課題】

(丹波・瑞穂地区)

- ・移送担当運転手3名と登録ヘルパー、正職員で実施している。
- ・特に丹波地区では朝8:30~9:00に活動が集中するため、社協本所と丹波支所の公用車を使用して対応している。
- ・利用者数が地区や人口規模により偏りがある。法人として運転手や車にも限りがあり、移送事業を受託

する他事業所を増やすことも必要ではないか。

- ・また、町営バスの運行方法なども合わせて行政と一緒に検討していく必要がある。

(和知地区)

- ・当日急に入る活動依頼への対応が難しい。
- ・活動が同じ時間に重なり利用者にお待ちいただくことが多くなっている。

(3) - 1 食の自立支援事業 (毎日給食)

- 対象者：調理が困難な一人暮らし高齢者
- 内容：栄養バランスのとれた夕食弁当の宅配
- 利用料：1食 500円

	瑞 穂	和 知	合 計
28年度利用者 (人)	540	202	742
27年度利用者 (人)	550	181	731
26年度利用者 (人)	476	189	656
前年度比較 (%)	98.2	111.6	101.5
26年度比較 (%)	113.4	106.9	113.1
28年度提供食数 (食)	9,151	4,023	13,174
27年度提供食数 (食)	9,179	3,507	12,686
26年度提供食数 (食)	8,565	3,849	11,159
前年度比較 (%)	99.7	114.7	103.8
26年度比較 (%)	106.8	104.5	118.1

【成果・課題】

- ・本事業は、見守り活動としても重要な役割をはたしているが、配食ボランティアの担い手が減ってきている。
- ・日曜日や年末年始のサービス提供が課題となっている。

(3) - 2 食の自立支援事業 (ふれあい型給食サービス)

- 対象者：一人暮らし高齢者・高齢者世帯等
- 内容：調理・配食ボランティアによる月2回実施の「かけはし弁当」
- 利用料：1食 400円

	配 食 数	調理ボラ数	配食ボラ数
28年度実績	830食	120人	356人
27年度実績	1,066食	119人	330人
26年度実績	977食	122人	333人
前年度比較 (%)	77.9	100.8	107.9
26年度比較 (%)	85.0	98.4	106.9

【成果・課題】

- ・今年度より材料費高騰のため、利用料を100円値上げし1食400円で実施。
- ・新たな希望者がサロン等から紹介いただき利用につながるケースがある。
- ・調理ボランティアが高齢化のため、活動の継続に課題がある。年度ごとに事業の振り返りをボランティアとともに確認し、次年度につなげていく。
- ・夏場の保冷バックでの配食や、調理ボランティアの衛生管理も徹底して継続したい。

(3) - 3 高齢者食生活改善事業（高齢者ふれあい調理実習会）

■対象者：一人暮らし高齢者・高齢者世帯等の高齢者

■内 容：食生活改善推進員協議会「くるみの会」の協力を得て、「作る喜び」「大勢で食べる喜び」等を感じてもらおうと共に、調理方法を学ぶ

■利用料：1食 400円

<丹波地区>

	対象地域	開催日	参加者数	くるみの会
第1回	竹野地区	6月29日	8名	5名
	高原地区	6月28日	4名	6名
	須知地区	6月30日	8名	4名
	下山地区	6月24日	7名	4名
第2回	竹野地区	11月28日	10名	5名
	高原地区	11月29日	3名	5名
	須知地区	11月30日	4名	7名
	下山地区	12月2日	16名	7名
合 計			60名	43名
前年度実績			74名	51名

<瑞穂地区>

	区 名	開催日	参加者	くるみの会
第1回	質美地区	7月5日	13名	4名
	橋爪サロン	6月28日	18名	3名
	井脇サロン	6月29日	17名	3名
	小野サロン	6月30日	8名	2名
	水原サロン	6月16日	16名	3名
	上大久保サロン	6月23日	11名	2名
	下大久保サロン	7月28日	11名	2名
	鎌谷中サロン	6月23日	23名	4名
	栗野サロン	6月25日	17名	1名
	水呑サロン	6月22日	14名	2名
	行仏サロン	6月27日	8名	2名
第2回	桧山地区	11月14日	8名	3名
	三ノ宮地区	11月11日	7名	2名
	質美地区	11月17日	10名	3名
合 計			181名	36名
前年度実績			353名	54名

<和知地区>

	区 名	開催日	参加者	くるみの会
第1回	中山	6月25日	4名	3名
	升谷	6月15日	16名	1名
	市場	6月10日	9名	3名
	大倉	6月16日	9名	2名

	篠原	6月27日	7名	3名
	大迫	6月13日	7名	3名
	長瀬	7月22日	14名	2名
	塩谷	6月18日	5名	1名
	上乙見	6月30日	6名	2名
	西河内	6月25日	13名	2名
	下栗野	6月25日	11名	1名
	細谷	未実施		
	上栗野	6月22日	4名	1名
	仏主	6月29日	5名	1名
	本庄	6月13日	6名	2名
	坂原	6月24日	8名	2名
	中	6月28日	13名	2名
	角	7月4日	11名	2名
	広瀬	7月4日	12名	1名
	才原	6月16日	18名	2名
	大簾	7月7日	9名	2名
	広野	6月17日	6名	2名
	出野	7月6日	8名	1名
	稲次	7月8日	9名	2名
	安栖里	6月15日	16名	4名
	小畑	6月16日	12名	3名
第2回	中山	11月17日	8名	3名
	升谷	11月9日	19名	1名
	市場	11月15日	9名	3名
	大倉	11月7日	5名	2名
	篠原	11月10日	5名	4名
	大迫	11月17日	11名	3名
	長瀬	11月8日	14名	2名
	塩谷	11月9日	6名	1名
	上乙見	11月8日	3名	2名
	西河内	11月4日	9名	2名
	下栗野	11月12日	12名	1名
	細谷	未実施		
	上栗野	11月9日	3名	1名
	仏主	11月27日	6名	1名
	本庄	11月8日	5名	2名
	坂原	11月7日	9名	2名
	中	11月8日	10名	2名
	角	11月25日	16名	2名

広瀬	11月7日	11名	1名
才原	11月15日	16名	2名
大簾	11月19日	8名	2名
広野	11月13日	7名	4名
出野	11月2日	7名	2名
稲次	11月21日	9名	2名
安栖里	11月10日	8名	5名
小畑	11月10日	13名	4名
合 計		467名	106名
前年度実績		462名	113名

【成果・課題】

- ・全地区には伺えていないが、それぞれの地域の困り事や様子についてお話を聞いた。地域の声を直接聞ける良い機会なので、今後も各地域に出向きたい。

(4) 訪問理美容事業

- 対象者：理美容院に出向くことが困難な高齢者等
- 内 容：社協に登録された理美容師が訪問し理美容を行う
- 利用料：1回 1,000円

	丹波	瑞穂	和知	合 計
28年度利用者(人)	21	6	8	35
27年度利用者(人)	17	8	11	36
26年度利用者(人)	26	0	7	33
前年度比較(%)	123.5	75.0	72.7	97.2
26年度比較(%)	80.8	-	114.3	106.1

【成果・課題】

- ・新規利用者が減少傾向にある。

(5) 通所型サービスA事業(にこにこクラブ)

- 対象者：要支援または介護認定以外の高齢者を対象とする。
- 内 容：5班体制で、月2回、健康観察とレクリエーションを中心にして、閉じこもりの予防やコミュニケーション(出会い)を大切にした活動を実施
- 指導者：支援スタッフ…5名、看護師…3名、合計8名
- 会 場：主会場は、和知高齢者コミュニティセンター

月	開 催 日	参加者数	スタッフ数
4月	19日・21日・28日	54	20
5月	10日・12日・19日・24日・26日・31日	101	40
6月	7日・9日・16日・21日・23日・30日	105	40
7月	5日・7日・14日・19日・21日・28日	102	40
8月	18日・23日・25日	48	20
9月	1日・6日・8日・13日・15日・29日	96	40
10月	4日・6日・13日・18日・20日・27日	97	40
11月	8日・10日・17日・22日・24日・29日	98	51

12月	1日・6日・8日・13日・15日・22日	109	35
1月	17日・19日・26日	27	12
2月	2日・7日・9日・28日	112	26
3月	7日・9日・16日・21日・23日	108	31
28年度実績		1,057	395
27年度実績		1,056	379
前年度比 (%)		100.1	104.2

【成果・課題】

- ・看護師の登録は3名としているが、1名は休職中であり実質2名で対応をしている。スタッフの余裕を持てる確保が必要である。

【障害者福祉事業】

●障害者自立支援事業

(1) 居宅介護・重度訪問介護事業

■ホームヘルパーによる在宅支援活動

	障害支援 区分 1	障害支援 区分 2	障害支援 区分 3	障害支援 区分 4	障害支援 区分 5	障害支援 区分 6	合 計
28 年度利用者	17	16	52	0	0	20	105
27 年度利用者	24	30	41	0	0	20	115
26 年度利用者	24	32	35	0	0	24	115
前年度比	70.8	53.3	126.8	—	—	100.0	91.3
26 年度比較	70.8	50.0	148.6	—	—	83.3	91.3
28 年度提供数	146	112	265	0	0	498	1,021
27 年度提供数	214	125	290	0	0	458	1,087
26 年度提供数	91	123	132	0	0	368	714
前年度比	68.2	89.6	91.4	—	—	108.7	93.9
26 年度比較	160.4	91.1	200.8	—	—	135.3	93.9

【成果・課題】

- ・障害特性についてサービスを提供する職員の研修が重要である。
- ・利用者からはサービスを提供する職員の固定化を希望されており、その希望に応じていくことが今後課題である。

(2) 障害者共同作業所運営事業

①利用実績

	生活介護	就労継続支援B型	合 計
28 年度利用者 (人)	2,894	5,651	8,546
27 年度利用者 (人)	3,147	6,041	9,188
26 年度利用者 (人)	2,985	5,130	8,115
前年度比較 (%)	92.0	93.5	93.0
26 年度比較 (%)	97.0	110.2	105.3

②販売会

販売会名	開 催 日	内 容
ふるさと人形展	4/ 4 (月)	質美にんぎょうの家みやびにて自主製品販売 職員 2 名
森のバザール	4/10 (日)	丹波自然運動公園にて自主製品販売 職員 3 名
スポーツレクリエーション フェスティバル	5/22 (日)	丹波自然運動公園にて自主製品販売 保護者会 2 名協力
黒豆ロック 2016	5/29 (日)	グリーンランドみずほにて自主製品販売 職員 3 名

大簾ほたるファンタジー	6/18 (土)	大簾にて自主製品販売 職員 2 名
第 11 回福祉事業所説明会 開けてガッテン 28	7/ 1 (金)	南丹市国際交流会館にて自主製品販売 職員 1 名
2016 やまびこ夏まつり	7/17 (土)	瑞穂山彦苑にて自主製品販売 職員 3 名
グリーンハイツ夏祭り	7/23 (土)	グリーンハイツ商店街にて自主製品販売 職員 3 名
和知ふるさと祭り	8/20 (土)	和知駅前にて自主製品販売 職員 3 名
ぬくもり京都丹波フェスタ 2016	9/24 (土)	イオンモール京都桂川竹の広場にて さをり織り体験コーナー 15 名体験実施及び 自主製品販売 職員 8 名
わちふれあい祭り	10/15 (土)	道の駅「和」広場にて自主製品販売 職員 3 名
丹波桜梅園まつり	10/22 (土)	丹波桜梅園にて自主製品販売 職員 2 名
ええもんみつけ市	10/26 (水)	丹波マーケスにて自主製品販売、職員 1 名、利用者 2 名
福祉まつり	10/30 (日)	山村開発センターみずほ 職員 13 名
丹波公園まつり	11/3 (木)	丹波自然運動公園にて自主製品販売 職員 3 名
上和知中部村まつり	11/5 (土)	篠原体育館前グラウンド 職員 3 名

③研修会

研修会名	開催日	内 容
平成 28 年度第 1 回 京丹波町共同作業所 作業療法指導勉強会	4/27 (水)	内容：精神障害をもつ利用者との関わり 講師：町子育て支援課 作業療法士 石原詩子 氏 参加：職員 9 名 場所：京丹波町共同作業所丹波本所
平成 28 年度就労支援事業所 担当者研修会	7/ 1 (金)	内容：映像で見る就労支援の現場 講師：なんたん障害者就業・生活支援センター 就労支援ワーカー 佐野大祐氏 参加：職員 3 名 場所：南丹市国際交流会館
平成 28 年度第 1 回京丹波町 共同作業所全体職員研修	7/ 8 (金)	内容：障害者福祉の基本的な考え方、職場の社会的役割や 意義について演習を通じて理解を深める 講師：なんたん障害者就業・生活支援センター センター長 和田誠司氏 参加：職員 13 名 場所：瑞穂保健福祉センター
平成 28 年度キャリアアップ 研修（中堅職員）1 回目	7/15 (金)	内容：福祉サービスの倫理と基本理念、福祉職員のキャリアデザ インと自己管理、メンバーシップ・リーダーシップ 講師：大谷大学 教授 山下憲昭氏 参加：職員 1 名 場所：京都テルサ

平成 28 年度 夏のセミナー	7/29 (金)	内容：気づかれにくい発達症の子どもたちの理解と対応 講師：十一 元三氏・義村さや香氏 参加：職員 1 名 場所：京都学園大学
平成 28 年度キャリアアップ 研修（中堅職員）2 回目	8/ 9 (火)	内容：中堅職員としての役割とキャリアアップ I ～コミュニ ケーション・専門性～ 講師：関西福祉科学大学 准教授 立花直樹氏 参加：職員 1 名 場所：京都社会福祉会館
「よりよく商品を見せる」た めの基礎研修 I	8/30 (火)	内容：「ぬくもり京都丹波フェスタ 2016」販売ブースデ ィスプレイの実践 講師：(株) クリエイティブコバコ 代表取締役 小林れい氏 参加：職員 3 名 場所：南丹保健所
平成 28 年度第 2 回京丹波町 共同作業所全体職員研修	12/ 16 (金)	内容：虐待に至る経過と支援における職員の心のあり方 講師：なんたん障害者就業・生活支援センター センター長 和田誠司氏 参加：職員 12 名 場所：瑞穂保健福祉センター
平成 28 年度障害者福祉サー ビス事業所職員研修	2/ 25 (土) 26 (日)	内容：障害のある人の人権を大切にするとはい 精神障害者への支援 講師：立命館大学 准教授 田村和宏 氏 参加：職員 2 名 場所：ハートピア京都

【成果・課題】

- ・利用者の経済的自立を目指し平成 24 年度から「工賃向上計画」に取り組み、今年度は利用者の給与支給規定の見直しを行った。利用者、保護者に提案、検討を重ね新しい給与支給規定を作成した。平成 29 年度より施行する。
- ・ぬくもり京都丹波プロジェクトとしてイオンモール京都桂川（向日市）にて販売を今年度も行い、口丹管内の事業所と協力し、障害者福祉の啓発に取り組んでいる。しかし、前日の深夜から準備を行い、当日も早朝から深夜までの取り組みとなるため、本事業への参加について見直しの必要性も感じている。
- ・利用者の障害特性に応じて行う支援は複雑で、専門的な知識と十分な経験を必要とすることから専門性のある職員を育成するために作業所独自の研修会を実施し、必要に応じて専門家の指導を仰いできた。引き続き福祉専門職としての資質を高めるために研修を重ねるとともに、専門職としての経験を積み重ねていくことが大切であると考えます。
- ・それぞれの施設において、老朽化による修理が必要となっている。また、障害の特性に対応する為、各作業の効率化を考えると作業室が手狭になり、施設環境の整備も検討していく必要がある。町新庁舎建築に伴い空いた施設利用を検討していく。

●障害者等生活支援事業

(1) 外出支援事業（一般外出）

- 対象者：障害者手帳を所持されている方で、公共交通機関を利用することが困難な方
- 内 容：障害者の自立生活を維持し、要介護状態への進行を防止するために必要と認められる通院や買い物の送迎
- 提供者：社協外出支援運転手、ホームヘルパー

	合 計		合 計
28 年度利用者（人）	68	28 年度提供回数（回）	164
27 年度利用者（人）	50	27 年度提供回数（回）	187
26 年度利用者（人）	52	26 年度提供回数（回）	215
前年度比較（%）	188.9	前年度比較（%）	87.7
26 年度比較（%）	130.8	26 年度比較（%）	76.3

(2) 重度心身障害児・者通院通所事業

①人工透析通院送迎

- 対象者：人工透析患者
- 内 容：人工透析のための通院送迎
- 提供者：社協外出支援運転手、ホームヘルパー

	合 計		合 計
28 年度利用者（人）	187	28 年度提供回数（回）	1,497
27 年度利用者（人）	195	27 年度提供回数（回）	1,708
26 年度利用者（人）	180	26 年度提供回数（回）	1,486
前年度比較（%）	95.9	前年度比較（%）	87.6
26 年度比較（%）	103.9	26 年度比較（%）	100.7

【成果・課題】

- ・和知便、瑞穂便の2便体制で利用者ニーズに添ったサービス提供がされている。
- ・利用者の状態に応じて介助員が添乗し安全な送迎体制が組んでいる。
- ・今後、利用者が増える可能性があり、運転手と公用車の確保が課題となる。

②花ノ木通所送迎

- 対象者：重度心身障害者で療育通所利用者
- 内 容：花ノ木地域療育施設通所送迎
- 提供者：社協外出支援運転手

	利用者数		提供回数
28 年度利用者（人）	12	28 年度提供回数（回）	50
27 年度利用者（人）	10	27 年度提供回数（回）	42
26 年度利用者（人）	12	26 年度提供回数（回）	50
前年度比較（%）	120.0	前年度比較（%）	119.0
26 年度比較（%）	100.0	26 年度比較（%）	100.0

【成果・課題】

- ・花ノ木センターと主治医、社協との連携、情報共有の基盤ができた。
- ・看護師資格を持つ職員（4名）が、交代しながら添乗し適宜吸引等を行っている。利用者の重症化に伴い、送迎時における安全確保が必要である。

(3) 障害者ガイドヘルパー派遣事業

	丹 波	瑞 穂	和 知	合 計
28 年度利用者 (人)	24	8	39	72
27 年度利用者 (人)	21	14	39	74
26 年度利用者 (人)	26	24	26	76
前年度比較 (%)	114.3	57.1	100.0	97.3
26 年度比較 (%)	92.3	33.3	150.0	94.7
28 年度提供回数 (回)	82	9	82	173
27 年度提供回数 (回)	97	15	77	189
26 年度提供回数 (回)	93	55	50	198
前年度比較 (%)	84.5	60.0	106.5	91.5
26 年度比較 (%)	88.2	16.4	164.0	87.4

【成果・課題】

- ・和知地区利用者のなかで、京都視覚障害者協会南丹京丹波支部の役員を担っている方が多く、会議のため京都市内や京都府北部への依頼が増えてきている。また、病院への付添も増えた。
- ・介護保険事業ヘルパーが本事業のガイドヘルパーも対応しているため、長時間の活動依頼には対応が難しいこともある。

【児童福祉事業】

(1) ファミリー・サポート・センター事業

① 各会員登録状況（9月末）

会 員 名	28年度末	新規登録者数	退会者数	27年度末
依頼会員（お願い会員）	55人	9人	4人	50人
提供会員（預かり会員）	46人	7人	2人	41人
両方会員	13人	2人	0人	11人

- ・依頼会員の退会理由・・・ 4名転出。
- ・提供会員の退会理由・・・ 1名転出、1名一身上の都合

【課題】

- ・町内のふれあいサロンに出向き担い手にファミサポ預かり会員への募集を呼びかけることを年度当初してきた。1名の登録はあったが、あまり会員増強にはつながらなかった。
- ・活動のある提供会員にはファミサポに対する高い意識があることが窺えるが、活動のない方については課題もあるので今後考えていきたい。（自宅での預かりは不安、活動についての理解など）

② 研修会交流会の開催・・・預かり会員養成研修会、会員交流会

内 容	日時・場所	内 容
第1回講習会 第2回講習会 講師 保育士、保健師、 日赤指導員、 人権擁護委員他	①6月23日・6月30日・ 8月26日 9:00～16:00 ほほえみ ②12月8日・12月14日 9:00～16:00 ほほえみ	子どもの病気と事故防止について 子どもの人権について 救急救命講習 子どもの社会性について 預かり会員として 会員交流 自宅レポート 計15時間 提供両方会員 ①5人受講 ②6人受講
会員交流会	9月3日（土） 9:30～12:00 ほほえみ	依頼両方会員12名 託児数21名 提供会員9名 講師 橋本果遊氏 本格ヨガと茶話会交流
提供会員交流会	10月19日（水） 9:30～12:00 ほほえみ	提供会員6名 講師 橋本果遊氏 本格ヨガと茶話会交流
福祉まつり	10月30日（日） 11:00～15:00 山村開発センター	福祉まつりにて、預かり会員・両方会員がファミサポコーナーとキッズコーナーを運営。参加者と交流を持ちながら、エプロンシアター読み聞かせを行う。
提供会員交流会 フォローアップ講習会	1月21日（土） 9:30～12:00 ほほえみ	提供会員 11名 緊急時対応について
依頼、提供、両方会員交流会	3月26日（日） 9:30～14:00 竹野小学校	依頼両方会員8名 乳幼児18名 提供会員12名 講師 山本麻里氏 調理交流（ピザづくり）の他、緊急時対応講習、町の子育て支援制度の紹介など

- ・リスクマネジメントのフォローアップ講習会が実施できよかった。参加会員も緊急時の対応に関心が高く、今後も継続して実施したいと考える。
- ・28年度の福祉祭りに多くのファミサポ会員の協力があつたことがよかった。また次回開催にも参加協力を呼びかけていくことが大切である。
- ・講習会2回実施は受講者の人数が少数になりかねないため、2回の開催は検討が必要と考える。29年度は講座内容や時間数も推奨されている講習内容に合わせていけるよう内容を検討し、1回の開催でもよいのではないかと。

③ 活動実績・・・調整状況

事業名	回数	内容
マッチング	16回	仕事時に子どもの預かり依頼 学童保育の迎への時間変更のため 習い事教室の送迎依頼 上の子の行事の時、下の子の預かりを依頼
活動実績	280回	学童から自宅までの送迎（継続） 習い事への送迎2件（継続） 自宅預かり

- ・自宅預かりの依頼も多少はあり、会員の援助活動もある。
- ・送迎が活動の主流である。
- ・提供会員複数とマッチングするため依頼1件でもマッチングは複数回になる。

④ 「預かり保育ルーム」実績

実施月	日（曜日）	場所	預かり乳幼児数（人）	スタッフ数（人）
4月	25（月）	保健福祉センター 2階	3	4
5月	17（火）	保健福祉センター 2階	1	2
	27（金）	保健福祉センター 2階	4	4
6月	15（水）	保健福祉センター 2階	3	3
7月	19（火）	保健福祉センター 2階	3	4
9月	26（月）	保健福祉センター 2階	4	7
	30（金）	保健福祉センター 2階	1	1
10月	27（木）	保健福祉センター 2階	2	3
	31（月）	和知	1	2
11月	25（金）	保健福祉センター 2階	2	2
	28（月）	保健福祉センター 2階	3	3
12月	19（月）	保健福祉センター 2階	2	3
29年1月	30（月）	保健福祉センター 2階	4	5
2月	24（金）	保健福祉センター 2階	5	7
	27（月）	保健福祉センター 2階	3	5
3月	15（水）	保健福祉センター 2階	1	2
	24（金）	保健福祉センター 2階	4	6
合計17回			46	63

【考察】

- ・ 4月当初から預かり保育ルームの希望者が少なく、月2回の実施はできていない。(保育所入所が多くあった)が、後半は利用者も増え、この事業の必要性について考えていかなければならない。その中で、公共の場で行う預かり保育ルーム活動は本来のファミサポ活動とは違うため、預かり会員の費用弁償算出について、子育て支援課から指導を受け29年度予算に計上することができなかった。この事業の方向性について検討した結果、これまで通りの一時預かりは廃止することに決定する。
- ・ 29年度は、交流会を活発に行うことで、預かりルームに代えて、活動会員の活動も補償していくことで事業を考えていく。



【地域福祉推進事業】

1 啓発活動の展開

(1) 社協広報紙「ほほえみ」の発行

NO	表紙・発行日	内 容 等
第 35 号	 <p>4月17日発行</p>	<p>社協組織改編のお知らせ、社協職員配置図、住民寄り添い型助け合い活動「かがやき」、日赤社資協力のお祝い、作業所 NEWS、ファミリー・サポート・センターよりお知らせ、平成28年度調理実習会のお知らせ、寄付お礼</p>
第 36 号	 <p>6月17日発行</p>	<p>28年度事業計画・予算、社協会費のお祝い、社協事業紹介、作業所 NEWS、ファミリー・サポート・センターよりお知らせ、しあわせ川柳、調理実習会メニューのお知らせ、寄付お礼</p>
第 37 号	 <p>9月17日発行</p>	<p>平成27年度事業報告・決算報告、新役員・新評議員紹介、赤い羽根共同募金のお祝い、認知症について、災害ボランティアセンターよりお知らせ、社会福祉体験学習、作業所 NEWS、ファミリー・サポート・センターよりお知らせ、寄付お礼・第5回福祉まつりのお知らせ</p>
第 38 号	 <p>1月17日発行</p>	<p>会長新春メッセージ、かがやき通信、第5回福祉まつり、絆ネット構築事業・歳末助け合い、京都府福祉大会・デイサービスほほえみ、町建設業協会地域貢献事業、家族介護者教室、作業所 NEWS、ファミリー・サポート・センターよりお知らせ、寄付お礼・フェイスブック始めます</p>

【成果・課題】

京丹波町社協の広報紙として年に4回(季刊誌)、全戸配布で発行。法人の基本理念や事業計画・予算、事業報告・決算のほか、福祉まつりや災害情報などについて情報発信を行った。毎号において共同作業所ニュース、ファミサポよりのお知らせを掲載し、障害者福祉、子育て情報についての広報も行った。

(2) facebook (フェイスブック) での情報発信

京丹波町社協の事業に関する情報や町内の地域福祉活動の取組み等について、迅速に情報提供することを目的に、2月から facebook (フェイスブック) ページを開設し運用をスタートした。

①投稿実績

投稿日	内容	担当課
平成 29 年 2 月 1 日	フェイスブック開設のお知らせ	地域福祉課
2 月 3 日	デイサービスセンター 節分レクリエーション紹介	在宅福祉課
2 月 7 日	ふれあい・いきいきサロン活動者交流研修会開催報告	地域福祉課
2 月 8 日	歳末たすけあい運動ご協力のお礼	総務課
2 月 13 日	デイサービスセンター 日帰り旅行申込み開始のお知らせ	地域福祉課
2 月 15 日	家族介護教室開催のお知らせ	在宅福祉課
2 月 15 日	ボランティア情報紙 ほのボラNo.41 発行のお知らせ	地域福祉課
2 月 22 日	介護者教室開催の報告	在宅福祉課
2 月 22 日	共同作業所 自主製品の紹介	共同作業所
2 月 24 日	ふれあい・いきいきサロンでの、福島県双葉町復興支援の取組み紹介	地域福祉課
3 月 1 日	住民寄り添い型助け合い活動『かがやき』交流会開催のお知らせ	地域福祉課
3 月 2 日	共同作業所 生活介護事業での取組み紹介	共同作業所
3 月 7 日	デイサービスセンター 日帰り旅行開催の報告	在宅福祉課
3 月 8 日	新潟県糸魚川市 大規模火災義援金受付延長のお知らせ	総務課
3 月 9 日	傾聴講座開催の報告	地域福祉課
3 月 13 日	デイサービスセンター フルート演奏会の報告	在宅福祉課
3 月 15 日	デイサービスセンター 福島県双葉町復興支援の取組み報告	在宅福祉課
3 月 17 日	ボランティア情報紙 ほのボラNo.42 発行のお知らせ	地域福祉課
3 月 22 日	クローバーデイサービスさまによる、福島県双葉町復興支援の取組み報告	在宅福祉課
3 月 22 日	共同作業所 自主製品の紹介	共同作業所
3 月 23 日	社協職員全体研修 災害ボラセン運営訓練実施報告	総務課
3 月 29 日	ファミサポ 会員交流会開催報告	地域福祉課
3 月 31 日	共同作業所 避難訓練実施報告	共同作業所

【成果・課題】

- ・ SNS (ソーシャルネットワークシステム) を活用した情報発信をすることで、社協の事業などが迅速に広範囲に伝えることが可能となった。
- ・ 各課が週替わりで定期的に投稿することで、メールマガジンのように情報提供が行えている。
- ・ いろんな方々がシェアしていただくことで、福祉に関心の低かった方々にも社協の事業が伝わり、参加いただくきっかけになることを期待する。



(3) 第5回福祉まつりの開催

28年度は『次世代へつなごう ふくしの心』をテーマとし、来場者に楽しみながら福祉を身近に感じていただくため、体験型の内容を中心に実施しました。

【日時】平成28年10月30日(日) 午前11時00分～午後3時00分

【場所】山村開発センター みずほ

【内容】●京丹波町福祉功労者表彰(個人25名、団体:3団体)

●社協活動の紹介パネル展示

●防災コーナー(災害ボラセンコーナー)

●ボランティア体験コーナー(絵手紙、彩り染め)

●共同作業所自主製品販売、さをり織り体験コーナー

●保健福祉課健康コーナー(保健師による骨密度、血圧、血管年齢等健康チェック)

●くるみの会「おにぎり体験」コーナー

●ファミサポ会員による歌の披露(オープニング)、紙芝居コーナー

●各種体験コーナー(乗馬体験、ガラス玉デコレーション、工作・ぬりえ、粘土教室)

●協力団体による模擬店

●みんなでラジオ体操 ●みんなで紙ヒコーキとばし(エンディング)



2 地域で安心した生活を送るために・・・“つながり”を大切に活動の展開

(1) ふれあいいきいきサロン活動の展開

① ふれあいいきいきサロン各地区の設置状況

丹波地区	瑞穂地区	和知地区	合計
31サロン 障害者サロン 1 広域サロン 1を含む (未実施5地区)	31サロン 広域サロン 1を含む (未実施3地区)	11サロン	73サロン
(27年度実績) 32地区/34地区 (94.1%) 障害者サロン1 広域サロン 1を含む	(27年度実績) 29地区/32地区 (90.6%) 広域サロン 1を含む	(27年度実績) 11地区/27地区 (40.7%)	(27年度実績) 72地区/93地区 (77.4%)

②研修・交流活動

研修・講座名	開催日・場所	内 容
平成28年度 ふれあいサロン 連絡会 ※地区毎開催	和知:7/1(金) 13:30~15:30 歯科診療所	『助け合い活動 かがやきについて』 『情報交換会』 参加者 14名
	丹波:7/12(火) 13:30~15:30 健康管理センター 瑞穂:7/15日(金) 13:30~15:30 瑞穂保健福祉センター	『買物支援バス運行事業について』 講師:商工観光課 山下 稔 氏 『助け合い活動 かがやきについて』 『情報交換会』 参加者 丹波 34名 瑞穂 43名
平成28年度 京丹波町ふれあい・い きいきサロン活動者 交流研修会	H29年2/7(火) 13:30~16:00 山村開発センタ ーみずほ	『認知症啓発ドラマ鑑賞』 『認知症の正しい理解』 講師:クローバーサービス 山下 文江 氏 京丹波町包括支援センター 島田 恵子 氏 『情報交換会』 参加者62名

【成果・課題】

- ・新たに仏主、下粟野区でサロンが立ち上がった。不定期ではあるが寄り合う意識が住民の中で生まれてきた印象を受ける。
- ・サロンが無い地区においては年2回のふれあい調理で互いの近況を確認する良い機会となっている。(和知地区)



京丹波町ふれあい・いきいきサロン活動者交流研修会 (H29.2.7)

(2) 小地域ボランティア高齢者支援事業

① 傾聴ボランティアによる訪問活動の展開

	丹 波	瑞 穂	和 知	合 計
活動回数	4 3	2 2	1 3 4	1 1 7
延べ訪問回数	3 7	1 6	1 2 2	1 2 1
訪問対象件数	9	2 8	1 1	4 9
サークル員数	8	6	8	2 2

- ・活動回数には定例会議の回数も含まれる。
- ・利用者の状況報告を次のサービスへつなげやすい。

(3) 絆ネット構築支援事業・・・京丹波町委託事業（平成28年度新規事業）

①絆ネットプランの目標（理念）

無縁社会や孤独死が社会問題として取り上げられる現在、少子・高齢化が進む京丹波町においても「人と人とのつながり」が再び注目されている。そのような中で、高齢者や障がい者、児童など、見守りを必要とする方々を地域全体で見守れる「絆ネット」を構築し、地域住民や事業者が多く関わることによって、より多くの目で見守ることにより、困りごとや異変に気づき、誰もが住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らしていけるような地域づくりを目指す。

②実施状況

■町内小学校への登下校時における見守り状況聞き取り

瑞穂小学校	7月22日（金） 9：30～	田中教頭先生（局長・榎川）
下山小学校	7月26日（火） 10：00～	前谷教頭先生（局長・榎川）
丹波ひかり小学校	8月 3日（水） 10：00～	中田先生（局長・榎川）

※竹野小学校と和知小学校は、電話での聞き取りを実施。

■町老連への小学校登下校時の見守りのお願い

町老人クラブ連 合会役員会	8月16日（火） 13：30～	絆ネットの説明を行い、老人クラブでの日常の中で小学生の登下校の見守りをお願いする。それぞれのクラブに持ち帰って検討してもらうこととなる。
------------------	--------------------	--

■先進地視察研修

久御山町 社会福祉協議会	9月16日（金） 10：00～	久御山町社協では、平成26年度より事業を実施されており、取り組み内容が高齢者見守りネット事業・住民組織の見守り強化、研修会、周知啓発活動など、京丹波町での実施の参考になると思い視察先を選びました。 （参加者）社協職員5名、町保健福祉課職員1名
-----------------	--------------------	--

■きょうと地域福祉活動実践交流会

八幡市文化センター	平成 29 年 1 月 28 日 (土)	住民自治組織・老人クラブ連合会 社協職員など 23名
-----------	----------------------	-------------------------------

※宇治田原町「ころ柿カフェ」 八幡市「第五区見守り隊」 井手町「多賀お花づくりの会」 京田辺市「一休ヶ丘分会（福祉部）」の4つの事例発表。

自治会、民生委員、自主防災隊、福祉委員、老人クラブ、区民で構成された第5区見守り隊の報告が興味深かった。新聞、洗濯もの、部屋の電気などの日常生活でのさりげない見守り、月1回程度の訪問、関係機関との連携など参考にしたい取り組みが聞けた。

■見守りネットワーク研修会

3月12日(日) 13:30~15:00 山村開発センターみずほ参加者 56名	講義 ●「京都生協の見守り活動について」 道下 保夫 氏 ～ふだんの暮らし(仕事・活動)を見守りにつなげる～ ●京丹波見守りネットワークについて
--	---

※宅配業務をしながらの見守り活動を、事例を交えて話して頂きました。毎週同じ曜日、同じ時間に同じ担当者が配達する強みを生かした活動であり、今後、京丹波町で進めていきたい、普段の暮らしや仕事の中でのさりげない見守りの取り組みの良い例であった。その後、京丹波町の見守りネットワークについての説明。



京丹波見守りネットワーク研修会 (H29. 3. 12)

3 住民参加の地域福祉推進事業

(1) 社会福祉体験学習事業の実施

■対象 … 京丹波町在住の中学生、高校生を対象に（25年度から全町に拡大し、実施）

■内容 … 福祉施設等での体験を通じて福祉活動を学ぶことを目的に実施

開催日	内容	平27	平28	比較
8月1・2・3日	和知エンジェル（中学生）	0名	5名	+5名
8月8・9・10日	みずほ保育所（中学生）	3名	2名	-1名
8月8・9・10日	みずほ保育所（高校生）	0名	2名	+2名
	瑞穂山彦苑（中学生）	1名	0名	-1名
8月11・12・13日	瑞穂山彦苑（高校生）	0名	1名	+1名
8月8・9・10日	丹波高原荘（高校生）	0名	2名	+2名
8月1・2・3日	上豊田保育所（中学生）	2名	1名	-1名
	上豊田保育所（高校生）	1名	0名	-1名
中学生参加者合計		6名	8名	+2名
高校生参加者合計		1名	5名	+4名
参加者合計		7名	13名	+6名

【成果・課題】

- ・昨年度に比べ高校生の参加があり、参加者が増えた。福祉や地域について考える機会となっている。特に高校生は将来を見据えて参加され、実のある体験になっている。
- ・受け入れ先の協力事業所が参加しやすいように時間や日程も調整するなど大変協力的である。
- ・これまで希望がなかった障害者施設への希望があった。しかし体調不良によりキャンセルとなったことは残念であった。
- ・参加者には福祉まつりのボランティアも声掛けし、2名の参加ではあったが体験だけではなく次へつなぐことができた。



(2) デイサービスキッズボランティア体験学習の実施

■対象 瑞穂小学校4年生～瑞穂中学校3年生

■内容 中高生の福祉体験学習を実施する中で、子どもたちの福祉離れを感じることもあり、小学生からの福祉に触れ合うきっかけ作りの場として、デイサービスセンターほほえみにおいて、キッズボランティア体験を実施。高齢者の方との交流、レクリエーションやお茶出しなどのボランティア体験を春休み期間中に行う。

また、このこの体験を通じて、命の尊さや思いやり、やさしさを培うことも目的とする。

【参加者】 瑞穂中学校…1名 瑞穂小学校…11名

3/27(月)	3/28(火)	3/29(水)	3/30(木)	3/31(金)	4/1(土)
4名	6名	4名	3名	4名	5名
4/3(月)	4/4(火)	4/5(水)	4/6(木)	4/7(金)	4/8(土)
5名	5名	3名	5名	4名	4名

延べ人数 52名

【成果・課題】

- ・参加者の中には期間中毎日参加してくれた方もあり、デイサービス利用者へのお茶出しや一緒にレクリエーションを楽しむなど大変活気のある2週間を過ごすことができた。
- ・若い小中学生には、周りを元気にする力があると改めて感じる事ができ、この若い力をいかし活気のある京丹波町になるよう、今後も取組みを進めていきたい。



【ボランティア振興事業】

1 ボランティアバンク登録状況

	性別	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
丹波	男	5	2	3	2	15	19	46
	女	6	8	8	20	91	109	242
	計	11	10	11	22	106	128	288
	27	14	10	16	25	114	121	300
穂	男	0	0	0	0	15	10	25
	女	1	2	3	13	79	55	153
	計	1	2	3	13	94	65	178
	27	2	5	5	15	68	63	158
和知	男	0	0	0	0	7	17	24
	女	0	0	4	14	20	115	153
	計	0	0	4	14	27	132	177
	27	0	0	4	14	79	98	195
合計		12	12	18	49	227	325	643
27年度		16	15	25	54	261	282	653
比較		75.0%	80.0%	72.0%	90.7%	87.3%	115.2%	98.5%

2 ボランティア活動状況報告

(1) ボランティアグループ活動報告

①丹波地区

NO	ボランティアグループ名	年間活動回数	年間出勤人数
1	要約筆記ボランティア「イヤフレンズ」	71回	247名
2	朗読ボランティア「ともしび」	41回	225名
3	モンキーズ&ハッピーサークル	7回	59名
4	演芸ボランティア「丹波せせらぎ会」	33回	319名
5	演芸ボランティア「民謡みやび会」	9回	119名
6	演芸ボランティア「瑞舟会」	48回	192名
7	演芸ボランティア「苑の会」	11回	26名
8	お誕生カードボランティア「すずらん」	3回	12名
9	絵手紙ボランティア	15回	67名
10	くらしの応援ボランティア「ひらめき会」	11回	40名
11	保育ボランティア	48回	117名
12	美容ボランティア「愛(めぐみ)の会」	12回	60名
13	竹野ほほえみの会	52回	330名
14	蒲生ボランティアグループ	15回	123名
15	豊田あじさいの会	27回	231名
16	グリーンハイツすみれ会	10回	56名
17	グリーンハイツなごみ会	11回	226名
18	富田萩の会	8回	230名

19	傾聴ボランティア「うさぎの耳」	89回	166名
20	アロハフラピカケ	31回	594名
21	遊び広場もこもこ	20回	286名
22	和太鼓 舞夢	46回	623名
丹波支所活動計（イ）		618回	4,348名

②瑞穂地区

NO	ボランティアグループ名	年間活動回数	年間出勤人数
1	収集ボランティア「めぐみ」	6回	29名
2	要約筆記ボランティア「ささやき」	28回	49名
3	朗読ボランティア「あかり」	14回	75名
4	デイサービス介助ボランティア「あじさい」	483回	500名
5	暮らしの応援ボラ手作り介護用品「コスモス」	19回	94名
6	暮らしの応援ボラ「ダイナミックス」	19回	104名
7	保育ボランティア	14回	14名
8	絵手紙ボランティア	10回	57名
9	押し花ボランティア「花かご」	23回	101名
10	配食ボランティア	228回	392名
11	傾聴ボランティア「なかよし会」	39回	98名
12	手話サークル「いちょう」	23回	95名
13	京丹波スリーA	31回	133名
14	くるみの会	72回	185名
15	ハッピーマロン	5回	29名
16	コーラスカナリア	29回	—
瑞穂支所活動計（ロ）		1,043回	1,955名

③和知地区

NO	ボランティアグループ名	年間活動回数	年間出勤人数
1	要約筆記サークル「くさぶえ」	72回	211名
2	朗読ボランティア「こだま会」	12回	72名
3	ガイドヘルパー「みちづれ」	82回	39名
4	十三の会	80回	148名
5	七八会	38回	64名
6	みんなで手をつなごう会	13回	120名
7	大迫グループ	22回	67名
8	虹の会	147回	134名

9	お誕生カードづくりボランティア「天花」	13回	85名
10	手芸ボランティア「モチーフ」	13回	63名
11	ふれあい給食サービス「調理ボランティア」	20回	120名
12	ふれあい給食サービス「配食ボランティア」	341回	780名
13	彩いろグループ	11回	99名
14	才原グループ「ふきのとう」	3回	6名
15	大正琴同好会（年度途中で解散）	4回	20名
16	くるみの会和知支部	7回	125名
和知支所活動計（ハ）		878回	2,153名
総 合 計（イ+ロ+ハ）		2,539回	8,456名

(2) 個人ボランティア活動報告

活 動 内 容	活動回数	活動者数
京丹波町身体障害者福祉会体育大会のボランティア支援	1回	8名
瑞穂山彦苑夏祭りボランティア	1回	8名
全京都車イス駅伝競走大会ボランティア	1回	2名
ふれあい給食「かけはし弁当」帯び絵原画書き	20回	2名
ふれあい給食「かけはし弁当」帯び絵名前書き	20回	20名
京たんば花火大会清掃ボランティア	1回	5名
丹波桜梅園秋祭りボランティア	1回	5名
京丹波母子寡婦福祉会瑞穂支部クリスマス会	1回	2名
合 計	46回	52名

【成果・課題】

- ・大正琴同好会が解散。
- ・ボランティアの高齢化・次世代のボランティアの育成。



収集ボランティア「めぐみ」



全京都車イス駅伝競走大会ボランティア

2 ボランティア研修・養成講座・交流会の開催

研修・講座名	開催日・場所	対 象	内 容
衛生管理研修会 参加者 6/6 14名 6/7 30名	平成28年6月6日(月) 10:00~11:30 わちふれあいセンター 平成28年6月7日(火) 10:00~11:30 瑞穂保健福祉センター	・給食ボランティア ・くるみの会会員 ・サロンボランティア ・ヘルパー他	「食中毒の予防について」 ・食中毒の予防について ・手洗いの仕方について (チェッカーを使い実習) 講師 京丹波町保健福祉課健康推進係 栄養士 上林 小百合 氏
朗読ボランティア 「ともしび」とリスナーとの交流会 参加者24名	平成28年10月15日(土) 11:30~15:30 道の駅「和」 道路情報センター	朗読ボランティア「ともしび」 リスナー	・昼食交流会 ・買い物 ・和知人形浄瑠璃・和知太鼓・京丹波吹奏楽団鑑賞
平成28年度 傾聴講座 参加者22名	平成29年3月6日(月) 13:30~15:30 和知ふれあいセンター	傾聴ボランティア 傾聴に興味のある方	『「傾聴という支援」 ～素敵な対人関係を考えてみる～ 講師：兵庫県対人援助研究所 主宰 稲松 真人 氏

【成果・課題】

- ・傾聴講座では、今までの傾聴の技法ではなく、対人関係を考えたコミュニケーションの講座にしたことで、視点も変わり今後の傾聴活動にも活かされると感じた。



衛生管理研修会



傾聴講座

【厚生福祉事業】

1 心配ごと相談事業

心配ごと相談	開催日	来談者	無料法律相談	開催日	来談者
丹波	5月9日	0	瑞穂	4月4日	4
和知	5月30日	0	丹波	5月9日	3
瑞穂	6月6日	1	和知	7月4日	4
和知	7月4日	0	瑞穂	8月1日	2
丹波	7月25日	1	丹波	10月3日	1
瑞穂	9月5日	0	和知	11月7日	0
丹波	10月3日	0	丹波	12月5日	1
和知	11月7日	0	和知	2月6日	3
瑞穂	11月28日	0	瑞穂	3月6日	2
丹波	12月5日	0			
瑞穂	1月10日	0			
和知	2月6日	0			
合計		2件	合計		20件
27年度実績合計		5件	27年度実績合計		12件

2 福祉資金貸付事業

	丹波地区	瑞穂地区	和知地区	合計
生活福祉資金貸付	1	1	0	2
くらしの資金貸付	0	0	0	0

3 会議・研修の開催

研修名	開催日	内容
平成28年度第1回福祉資金貸付審査会	8月17日	生活福祉資金について2件のケースについて延滞利子支払免除を審議していただいた。
生活福祉資金貸付事業新任担当者研修	4月11日	生活福祉資金貸付事業の担当者としての基本的知識と心構え等について学ぶ研修会。
第1回生活福祉資金貸付事業運営会議	6月29日	貸付運用方針・償還促進方針の変更・改正と償還促進方針における中長期滞納の取組み方についての会議
生活福祉資金貸付事業担当職員研修	8月24日	就学支援資金の貸付の概要と就学支援資金貸付実務の研修会
生活保護受給者等就労自立促進事業協議会	9月28日	ハローワークの主催会議。各市町村行政・社協担当者から最近の雇用失業情勢についての情報や各関係機関における支援施策・取組みの状況について報告し、意見や情報の交換を行った。

【成果・課題】

- ・就労に向けての自動車免許所得費用のための貸付1件と高等学校へ入学するための支度費の貸付1件を行った。
- ・貸付の相談に来られた相談者もあったが、返済の見通しが無い方や、他事業で対応すべき内容であったため貸付につながるケースは少なかった。また、問い合わせの中には「このお金は返さなくていいのですね?」という方や「滞納金(借金)の返済をしたいのでお金を貸してほしい」という方など、貸付として対応できないケースもあった。
- ・課題としては、現状の貸付の仕組みでは、緊急小口資金であっても京丹波町社協の審査会を経た後に府社協の審査会を経て貸付をすることになり、貸付までに数ヶ月かかり、『緊急』としての機能を果たさない。この制度については、早急に仕組みを変える必要がある。

4 総合相談事業

(1) 相談受付内容

金銭関係	介護等相談	書類等手続き	その他	合計
18件	4件	4件	10件 (ひきこもり・仕事の紹介・不調)	36件

(2) 相談対応結果

他機関紹介	多職種連携対応	社協事業対応	その他	合計
12件	4件	15件	5件 (自力解決・問合せのみで終了)	36件

【成果・課題】

- ・今年度から相談支援係が設置され、地域のさまざまな相談対応を行っている。相談内容は、金銭関係の相談がもっとも多く、次いで介護等の悩み、書類等の手続きに関する相談となっている。対応としては、地権事業やケアマネなどの社協事業での対応が最も多く、次いで行政等関係機関へつないだり、相談窓口を紹介したりする対応、行政(保健福祉課・包括支援センター)・ケアマネ・医療機関など多職種で連携して対応を行ったケースの順に多かった。その他に自力で解決されたケースや問い合わせのみで完結したケースなどもあった。
- ・課題としては、今のところほとんどのケースについて、関係機関につないだり対応したりして完結しているが、長期の対応が必要になったり、複雑なケースが入ったりした場合の対応を考慮しておく必要がある。またその内容も多様化するなかで、対応する職員は、様々な制度や相談機関などの情報を持っておく必要があると感じている。相談後のフォローも重要なため、継続したフォローがとれる体制づくりが必要となってきている。

【福祉関係組織活動支援】

1 日赤社員増強運動

項目	丹波	瑞穂	和知	合計
社資協力募金額	770,500円	571,470円	517,027円	1,858,997円

2 共同募金実績

(1) 赤い羽根共同募金運動 ⇒ 10月を運動月間として住民のみなさんに協力依頼

項目	内容	合計	
募金額	平成28年度募金額	3,263,616円	
配分総額	平成27年度募金の約8割	2,443,330円	
配分内訳	①啓発活動費	広報ほほえみ発行	647,521円
	②高齢者福祉事業費	町老連助成・一人ぐらし高齢者交流等	332,180円
	③障害児・者福祉活動費	町身体障害者福祉会助成等	230,000円
	④母子・父子福祉活動費	町母子寡婦福祉会助成等	130,000円
	⑤児童青少年福祉活動	町内小中学校福祉活動助成	235,052円
	⑥地域福祉活動	公募助成・かがやき活動・福祉まつり	761,141円
	⑦防災・災害対策事業	災害時用備品の購入	107,436円
合計		2,443,330円	

(2) 歳末たすけあい募金 ⇒ 12月を運動月間として住民のみなさんに協力依頼

項目	内容	合計	
募金額	平成28年度に寄せられた募金額	2,044,113円	
共同募金会事務費	募金資材、広報、委員会等費用	163,000円	
配分総額	平成28年度に寄せられた募金の約9割	1,881,113円	
配分内訳	①在宅援助活動費	見舞・激励金の配布	1,248,493円
	②在宅サービス事業費	介護用防水シート配布	532,620円
	③共同作業所支援	共同作業所交流会支援	100,000円
合計		1,881,113円	

【成果・課題】

募金活動においては、住民のみなさまにご協力いただいた戸別募金のほか、町内事業所のご協力による募金機能付き自動販売機からの寄付などもあり、昨年度に引き続き募金額が増加する結果となった。また、配分事業では町内の福祉団体への活動支援や住民主体の福祉活動を応援する「じぶんの町を良くする活動助成事業」、28年度からスタートした助け合い活動「かがやき」、災害時対策事業など様々な福祉活動が実施された。

しかし、世帯数の減少や価値観が多様化するなかで、いかに地域で募金活動に取り組んでいくのか、また地域の課題解決に柔軟に対応できる事業の展開など今後の検討課題である。

今後も地域のみなさまから寄せられた募金をどのように地域福祉活動にいかしていくのか事業内容を検討しながら「京丹波を良くするしくみ」として募金運動を展開していきたい。

3 京丹波町老人クラブ連合会

京丹波町老人クラブ連合会と丹波・瑞穂・和知それぞれの支部活動を支援するため、事務局機能を担っている。

【災害支援活動と災害ボランティアセンター活動報告】

1 平成 28 年熊本地震支援活動

熊本地震の支援活動として、市町村社協連合会（近畿ブロック）では、4月28日～6月23日の期間に熊本県西原村災害ボランティアセンターへ、全14クルールの職員派遣が行われた。

（1クルール＝6日間。京都は各クルールに1、2名の派遣）

（1）京丹波町社協での職員派遣対応

派遣クルール	派遣期間	派遣職員
第4クルール	5月10日（火）～14日（土）	岡本 秀平（地域福祉課 地域福祉係）
第10クルール	6月2日（木）～7日（火）	山本 亮栄（地域福祉課 相談支援係長）

（2）主な支援内容

災害ボランティアセンターマッチング班の総括、被災者への当日のボランティア受け入れ調整、受付業務の確認、送迎班との調整、ボランティアニーズとボランティアのマッチング及びオリエンテーション、水分補給の呼びかけ、必要資機材の伝達、その他の本部との調整、スペシャルボランティア（重機・炊き出し等）・農業ボランティア等担当への調整、団体受付担当者との調整、当日ニーズの片付け（活動報告の終了・継続の確認）、翌日の受入調整、翌日のニーズ表の整理、活動の中で生じた課題の検討・共有及び方針の決定、活動の報告及び課題等の提起（活動後ミーティング）など

2 研修・講座

研修名	開催日	内容
京都府災害ボランティアセンター全体研修	6月25日	佛教大学金田喜弘講師の講義の後、各災害ボランティアセンターの取組みについてパネルを用いた報告が行われた。
市町村災害ボランティア担当者会議	7月5日	平成28年熊本大震災支援活動の報告を中心に災害ボランティアセンターの役割と業務について確認を行った。
京都府災害ボランティアセンター研修会 初動支援チーム養成講座	7月16日	府内・外で災害が発生した際、初動期に現地へ支援に駆けつける初動支援チームの養成講座。
京都府災害ボランティアセンター研修会 初動支援チームフォローアップ講座	7月17日	初動支援チームに今年度新たに2名が登録し、フォローアップ講座を受講した。
みのりヶ丘サロン熊本地震支援活動の報告と災害対応講演	8月3日	サロンからの依頼を受け、熊本地震での支援活動の報告と災害対応についてのお話をした。
向日市社協主催災害ボラセン設置運営訓練	10月1日	向日市社協からの参加打診を受け、2名の職員が災害ボランティアセンターの設置運営訓練に参加した。
第5回京丹波町社協福祉まつり （災害ボラセンコーナーでブース展示）	10月30日	災害ボラセン資機材展示と非常食の試食コーナーを設置し、災害ボラセンのPRと災害への備えについて啓発をした。

船井青年会議所定例会議における災害ボランティアセンター活動の講演	11月19日	南丹市社協と船井青年会議所定例会議に出席し災害時における災害ボランティアセンターの役割等について説明を行った。
クローバーサービスヘルパー会議 熊本地震支援活動の報告と災害対応講演	11月30日	クローバーサービスから依頼を受け、ヘルパー会議にて熊本地震での支援活動の報告と災害対応についてのお話をした。
京都府災害ボランティアセンタースタッフ部門別養成研修	12月6日	災害ボランティアセンター運営時、センター長の役割を担い、センター長等を補佐する立場で運営に携わる可能性がある者の研修。
京都府災害ボランティアセンター第2回初動支援チームフォローアップ講座	2月28日	府内・外で災害が発生した際、初動期に現地へ支援に駆けつける初動支援チームの養成講座。
京丹波町社協職員研修 災害ボランティアセンター立ち上げ訓練	3月19日	常勤職員を対象に災害ボランティアセンターの設置運営についての研修を行った。33名の職員と京都府災害ボランティアセンター職員2名が出席。
平成28年度近畿ブロック社協災害ボランティアセンター運営者訓練	3月22日 ～23日	近畿ブロック社協職員を対象とした災害ボランティアセンター運営者訓練が和歌山県で開催され1名の職員が参加した。

【成果・課題】

- ・資機材の整備として、アルミアーカー3台（京都府共同募金会の助成金）、災害ボランティアセンター内で使用する長机12台（共同募金配分金）、避難所で使用する屋内用テントを購入・配備した。
- ・今年度、職員研修として常勤職員全員を対象とした災害ボランティアセンター運営訓練を開催した。ボランティアセンタースタッフの役割はもちろん、被災者役やボランティア役を疑似体験することにより、それぞれの立場で感じることを理解することができ、非常に有意義な研修となった。



京丹波町社協職員による災害ボラセン運営訓練

